初級用中国語教科書
『みんなの中国語――会話編』のデジタル教材化

池田磨左文

神戸学院大学では，共通教育初級中国語科目である「初級中国語Ⅰａ・Ⅱａ」および「初級中国語Ⅰｂ・Ⅱｂ」それぞれの教材として，共に中山文が監修し池田磨左文・于耀明・傍島史奈・山本透江が共同執筆した『みんなの中国語――読物編』（2012　白帝社）と『みんなの中国語――会話編』（2012 試行版　2013 正式版　白帝社）を 2012 年度から使用してきた。本報告は，「2014 年度神戸学院大学教育改革助成金」事業として申請した『みんなの中国語――会話編』のデジタル教材化について述べるとともに，当初は『みんなの中国語――読物編』と『みんなの中国語――会話編』の二つについてデジタル教材化を行なうこととしていた計画が最終的に『みんなの中国語――会話編』だけのデジタル教材化となり，さらにその完成が 2017 年春まで遅延してしまった過程を記したものである。

１．当初の教育改革計画

当初「2014 年度神戸学院大学教育改革助成金」を申請した際に計画したのは『みんなの中国語 ――読物編』と『みんなの中国語――会話編』を監修者・著者自らの手で共にデジタル教材化することであった。

日本語を母語とする学習者が中国語を学ぶ際に陥りやすい問題の一つは，発音するときは日本語のルビに相当するピンインに頼り，意味を把握するときはその意味や用法が日本語とは必ずしも一致していないにもかかわらず日本語と形が同一あるいは類似の漢字に頼ってしまうことである。文法に至っては日本語の文から漢字だけを残して送り仮名を取りさえすれば中国語になると錯覚している者さえ存在する。

日本語を母語とする学習者の中国語学習におけるこれらの問題は早くから認識されており，例えば伊地知善継ほかの著した『総合中国語入門』（1972　東方書店）ではピンインだけからなる本文を先に配し，漢字だけからなる本文とその日本語訳とを本文の裏ページに配するという斬新な手法を以てこれを克服しようと試みたが，このような形式は残念ながら主流とはなり得なかった。「文字（すなわち漢字）を通して中国語を学ぶ」という日本における中国語教育の意識を変えさせるには至らなかったのである。

共通教育センター

この状況を打破するための手段として，教材をデジタル化することを考えた。ピンインと漢字とを先ず切り離し，必要に応じてピンインあるいは音声から漢字へ，漢字からピンインあるいは音声へと自由に変換し，さらに中国語と日本語とを随時切り替えることができるようにすることによって，最終的にはピンインにも漢字にも頼らず音声から中国語を理解するように仕向け，また安易に日本語に頼ることなく発信力を伴う中国語の運用能力を養成することができるのではないかと考えたのである。

このような形でデジタル化された教科書を学生が課外で使うようになれば，学生は漢字を発音したり書いたり，また音声を聴いて意味を理解したりして，自らの弱点を克服することが容易になる。教室は学生が教師の説明を聞いて理解する場ではなくなり，中国語の運用能力を養い高めるためにより実践的な訓練を行なう場となる。現状では教科書を読むことに授業時間の大半を費やす教師も少なくない。教室における教師の仕事を教科書「を」教えるのではなく教科書「で」教えることに転換させるという効果を生むことも期待した。

2．教育改革計画の変更

「2014 年度神戸学院大学教育改革助成金」としてこの計画を申請したところ，「DVD 制作等に関して外部委託を活用する等を行い，完成度と全学への展開を進めてほしい」との補足事項が付された上で助成金額が申請に対して大幅に増額され，採択された。

この要請に沿うべく『みんなの中国語 —— 読物編』と『みんなの中国語 —— 会話編』をデジタル教材化するため，両教科書の出版元である白帝社を通じおおよそ次の内容で業者に見積りの作成を依頼した。

- 本文・置き換え練習とも，漢字表示・ピンイン表示・中国語音声・日本語表示・日本語音声など任意の要素を相互に組み合わせて使えるようにする。例えば「日本語表示＋中国語音声」・「中国語漢字表示＋中国語音声」・「中国語ピンイン表示＋中国語音声」・「中国語漢字表示＋中国語ピンイン表示＋中国語音声」・「日本語音声＋中国語音声」などというように，学習者の必要に応じてさまざまに切り替えて学習ができるようにする。
- 「中国語表示＋中国語音声」の箇所では，文字が音声表示の同期して表示されるようにする。
- 本文部分では，既出の語句だけ漢字表示やピンイン表示を省くことができるようにする。

業者による見積りの結果は，予算の範囲では課文（本文）部分についてのみ「音声の再生に伴って文字の色を変更させる」・「ピンインの表示・非表示を切り替える」ことが可能になるが，発音編や練習部分については手を加えることができないというものであった。

発音篇はともかく，練習部分のデジタル化ができないとなれば，形式的に教科書をデジタル化したとしてもそれを使用した学習効果は大きく減じ，教科書をデジタル教材化する意味もなくなってしまうと考えた。そこで，当初は『みんなの中国語――読物編』と『みんなの中国語――会話編』の両方をデジタル教材化することにしていた計画を『みんなの中国語――会話編』のみをデジタル教材化することに変更し，これに対して教育開発センターの了承を得た。『みんなの中国語――会話編』のみをデジタル教材化することにしたのは，『みんなの中国語――会話編』の方が『みんなの中国語――読物編』に比べて置替え練習などデジタル化によって効果を発揮できる練習が多かったためである。

デジタル教材化する対象を『みんなの中国語――会話編』のみとして再度見積もりを取るとともに，サンプルの提供を受けた。練習部分は固より発音篇も含めて全てデジタル化されたサンプルは見事なものであったが，提示された見積額は予算を大幅に超えており，再度の計画変更を余儀なくされた。そこで，おおよそ次の条件で業者に見積りの作成を再度依頼した。

- 発音篇・本編・単元復習の全てについて，中国語漢字・中国語ピンイン・日本語などのテキスト部分はこちらで用意する。中国語音声は教材本体の附属 CD のものを流用する。
- スマートフォンへの対応だけで良い。PC・タブレット端末への対応は不要。
- 発音篇は練習部分だけデジタル化する。ドリル部分のデジタル化は不要。
- 課文（本文）は，画面上で日本語と中国語とが切り替えられるようにする。中国語は漢字とピンインとをセットにする。漢字とピンインとの切り替え機能は不要。
- 課文（本文）は，「スピーカーボタンを押すとその段落の音声が再生される」機能は必要。「再生中の文字にマーカーが表示される（音声同期）」機能はなくても良い。
- 新出語句は，画面・音声ともに不要。
- 置き換え練習は，全て文の形で基本文・置き換え練習ともに画面上で日本語と中国語（漢字だけ，一部ピンイン付き）とが切り替えられるようにする。
- 置き換え練習は，「スピーカーボタンを押すとその文が再生される」機能は必要。「再生中に文字にマーカーが表示される（音声同期）」機能は不要。
- 単元復習は，課文（本文）のみ必要。練習は不要。課文（本文）の形式は他の課に従う。

基本的にこの条件に従いながら予算に収まる範囲で見積りを再度作成してもらい，改めてサンプルの提供を受けた。これを了承し，デジタル教材化された『みんなの中国語――会話編』の姿がようやく見えてきたのであるが，業者に拠ればこちらから教材の最終的な形式を提示するのが遅れたため「2014 年度神戸学院大学教育改革助成金」事業における助成の対象期限である 2015 年 3 月 31 日までに納品することができないとのことであった。そこで業者と教育開発センターとの間で折衝を行なった結果，2015 年夏を目処に完成させることを条件に『みんなの中国語――会話編』のデジタル教材化を教育開発センターから

正式に発注し，手続を進めることとなった。

ところが，教科書本体の中国語漢字・中国語ピンイン・日本語などテキスト部分の全てをこちらで用意するという条件で作業を進めていくことにしたものの，こちらの分担する作業であるテキスト部分の作成が滞り，2015 年夏までに完成させることが不可能な状況に陥ってしまった。当初理想としていた完成形と実際に作成されることになる形態との差をなかなか自分に納得させることができず，業者に渡すべきテキストの作成を確実に進めることができなかったのが原因である。結局，デジタル教材納品データー一式が業者からこちらに送付されたのが 2017 年 4 月になってしまった。

3．デジタル教材化された『みんなの中国語 —— 会話編』の学生への提供

デジタル教材化された『みんなの中国語 —— 会話編』のデーターをこちらで検証し，問題のないことを確認した。これを情報支援事務室に送付し，大学のサーバーに専用の領域を作成して，学生がこれを使用することのできるように依頼した。

2017 年度前期，『みんなの中国語 —— 会話編』は初級中国語Ⅰｂと中国語入門会話Ⅰで教科書として使用されている。そこで，教材がデジタル化されたこととそれが置かれている領域の URL を知らせる「ノート」を dotCampus これら科目の「マナビ」に追加し，これら科目を履修登録しているすべての学生にメールでこれを伝えた。また，教務に対しても，この URL をこれら科目の履修登録者に向けて一斉にメールで伝えるよう要請した。さらに，授業の担当者に対しても，自分の授業の中でこれの活用を促すよう依頼した。

2018 年 3 月 30 日時点での dotCampus 当該「ノート」の「学習の進捗（人数）」に拠れば，初級中国語Ⅰｂにおいては学生数 1,298 人の内「タスク詳細を閲覧し，全てのリンクを開いた」表示のある者が 262 人，「タスク詳細は閲覧したが，全てのリンクは開いていない」表示のある者が 61 人，「タスク詳細を開いていない」表示のある者が 975 人であった。また，中国語入門会話Ⅰにおいては学生数 136 人の内「タスク詳細を閲覧し，全てのリンクを開いた」表示のある者が 17 人，「タスク詳細は閲覧したが，全てのリンクは開いていない」表示のある者が 11 人，「タスク詳細を開いていない」表示のある者が 108 人であった。両科目を重複して履修登録している学生もあるので一概に言うことはできないが，どちらの科目においてもデジタル化されたこの教材に触れたことのある学生は多くない。

せっかくのデジタル教材である。これの活用を学生に促すよう授業の担当者を通じて伝えてもらうほか，それが可能であれば昨今流行の「反転学習」への応用も視野に入れてこれを使いながら授業を進めていくよう授業担当者に呼びかけていくつもりである。

なお，『みんなの中国語 —— 会話編』の URL は次の通りである。画面はスマートフォン用に作成されているが，PC やタブレット端末でも使用することが可能になっている。

http://www.ge.kobegakuin.ac.jp/~hanyuhuihua/index.html

４．結びに

「2014 年度神戸学院大学教育改革助成金」事業としてのこの計画は，池田磨左文を代表者とし，中山文・大濱慶子・于耀明・傍島史奈・山本透江を分担者として申請されたものである。当初の計画である『みんなの中国語――読物編』・『みんなの中国語――会話編』のデジタル教材化が『みんなの中国語――会話編』のデジタル教材化だけへと変更されるとともにデジタル化の作業そのものが業者に委託されることになり，その結果，池田を除く分担者に役割を発揮してもらうことができなかった。中山文・大濱慶子両教授にはデーターの検証に参与してもらうことしかできず，于耀明・傍島史奈・山本透江各非常勤講師には教科書本体の誤りを訂正してもらっただけであった。デジタル化された教材の作成・完成が遅れたこと，そのことにより教育開発センターを始め分担者のみなさまに迷惑をかけたこと，そして何よりも学生にこの教材を早期に届けることができなかったことに対して，深くお詫びする。